

令和4年度 島根県学力調査結果及び分析（松江市立義務教育学校玉湯学園 後期課程）

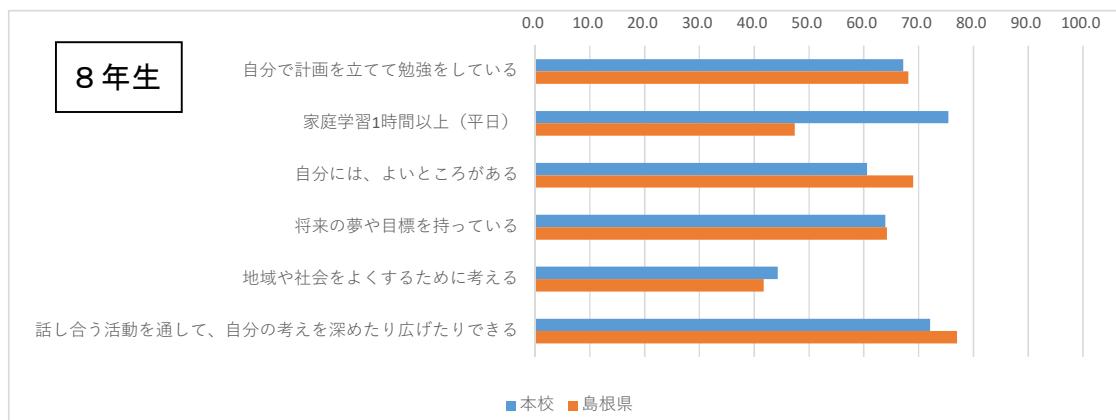
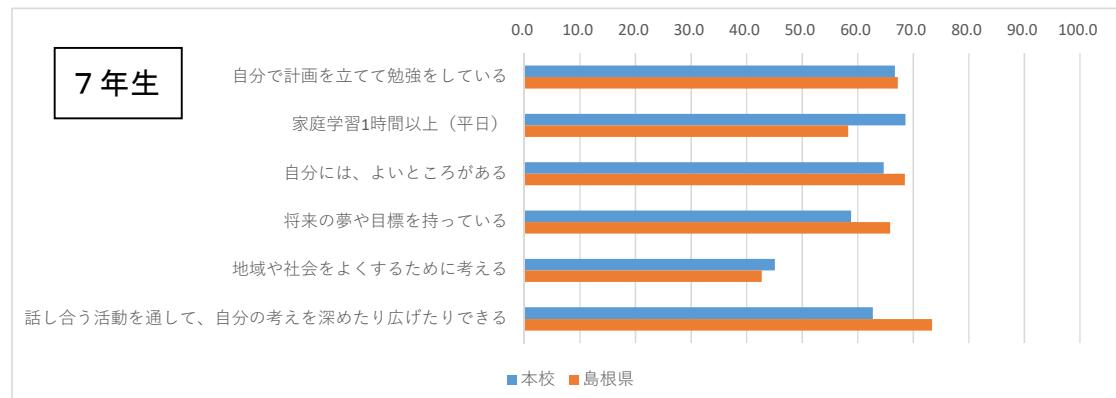
(1)学力調査結果から見られた成果と課題(○:成果 ●:課題)

7年国語	○毎時間、あるいは長期休業明け、全校一斉の基礎力テストなどで前期課程からの漢字の復習をしてきたので、その成果が出ていると思われる。今後も根気よく続け、定着を目指したい。 ●書く力が不足しており、記述問題に弱い。授業では書く活動ができるだけ入れるようにしている。引き続き取り組ませたい。	8年国語	○毎時間、あるいは長期休業明け、全校一斉の基礎力テストなどで小学校からの漢字の復習をしてきたので、その成果がある程度は出ていると思われる。さらに定着を目指したい。 ●書く力が不足しており、記述問題に弱い。授業では書く活動を入れるようにしているが、なかなか成果が出ない状況にある。引き続き取り組ませたい。
7年数学	○正負の数の計算や簡単な1次方程式等の知識・技能の観点と比例・反比例の内容についての正答率が高い。計算トレーニングや小テストの実施、ICTの有効活用によって知識・理解の定着が図られている。 ●文章を読み、そこから必要な情報を読み取り、数学を活用する問題の正答率が低い。	8年数学	○图形分野と基本の計算の正答率が高く、特に証明に関する問題の理解度が高い。結論を求めるためにどのように考えるかを授業の中で徹底したことや、小テストや学び合い・教え合い活動の中で計算の基本を徹底できた成果だと感じている。 ●1次関数の正答率が低かった。ICTの活用等工夫したが、関数の定義や式決定等の基本を丁寧に実施する必要があった。
7年英語	○毎時間の帯活動等で基本的な構文を用いたQ&Aや単語テストをすることで、英文の語順や語法の理解度が高い。また、まとまつた英文の読取もある程度できる生徒が多い。 ●並び替えや場面に合う英作文の正答率が低く、無解答率も高い。授業や家庭学習で、書く活動を意識的に取り入れていく。	8年英語	○毎時間の帯活動等で基本的な構文を用いたQ&Aや単語テストをすることで、英文の語順や語法の理解度が高い。単元末に短くても自己表現英作文をすることが書く力につながっている。 ●やや長い英文を読み取り、正しく理解する事が不得意だったり、時間がかかる生徒が多い。予習・復習など、自ら工夫して英語学習に取り組むように指導することが今後の課題である。

(2)生活意識調査から見られた成果と課題(○:成果 ●:課題)

7年	○成果としては、自主学習の方法を指導し、毎日自主学習ノートを提出させていたので、家庭学習のポイントが高かった。 ●課題としては、グループ学習の形態をとり、話合いや学習の方法は習得したが、深まりに欠けていた。また、職場訪問等を通して、将来の進路について考える機会はあったが、未だ自分の将来や目標を考えるに至っていない生徒が多くいた。	8年	○7年時から自主学習の方法を指導し毎日自主学習を提出させ、8年後半からは高校受験を意識してテキスト学習に取り組ませていていることで、家庭学習のポイントが高かった。 ●自己肯定感や将来や進路に対する積極的な姿勢が低い。上級学校調べや今後の進路学習を通して、興味関心を高めたり、学年や学級の交流の中で自分や互いの良さを見つけたり知ったりする機会を増やし、指導をしていく。
----	--	----	--

(3)意識調査(教育委員会として注目している項目のうち、全国学力・学習状況調査と同様の質問項目を挙げています)



【受検者数】 7年生 51名 8年生 61名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。